

從軍體驗

私の戦争体験（談）

平野 佐吉

若宮一丁目

戦争で足と耳がすっかりだめになって帰って来て、何も知らないから最初豊島区役所に行ってみた。しかし、傷痍軍人だからだめだと言われ、次に造幣局に行ったり、刑務所の監視員になれるかと頼んでみたが結局だめだった。府中の二、三の会社にも傷痍軍人だからと断られた。

次に傷痍軍人だと言わなかったら採用されました。同じ国民だといっても、いざとなったら冷たいものでした。ほんとうに中野には二〇年位住んでいます。その前は杉並区や豊島区に長いこと住んでいました。

兵隊の招集は、北海道にいた時でした。任地は北支で、そこには二年半位いました。私は工兵だったから、橋をかけたたり大工仕事をしていました。若いから体が続いたけど、今思えば大変なことだったですよ。食料は十分無いから、畑に行つてさつまいもを取ってきたりしました。生のまま食べていたからよく下痢をしましたけどね。

正定せいていに入城するとき、雨はじゃんじゃんぷり、小便する暇も

なく、行進しながら小便するんです。その時はあつたかいんですよ。ほんとに。

しらみも流行つてね。昭和十二、三年の北支はひどかったですよ。

五年か六年前に戸山町（新宿区）の元陸軍病院に検査で呼ばれました。北支でマラリアにかかり、熱を出して寝ていたことがあるからなんです。軍医に注射してもらったり、薬のおかげでそのうち自然に治ったんですがね。体がものすごく震えて何人にも押さえられて大変でした。

そのうち、大腸炎を患い赤痢になって、病院に入院させられ、そのまま病院から内地に帰されてしまいました。そのときは一等兵でしたね。昭和十四年の十一月頃のことです。

ところがまた昭和十六年に大動員（招集）があつて、このときは満州に行かされ、小倉の第二二連隊に配属されました。国境警備の任務でした。なぜ国境へ行つたかと言うと、二度目の招集で案外落ち着いていたので、大隊長が私のことを認めてく

れたらしいのです。

そこで何していたかという、戦車を攻撃する訓練だといって、六尺か九尺の棒の先に爆弾をつけ、草むらに隠れる。戦車が来たらキャタピラを狙うのが目的なんです。また、何かの作戦とかいって、一晩中十二里（四八キロ）の行軍もやりました。帰ってきたらもう明け方でしたよ。

その頃、松岡大臣とスターリンが会談して、国境での戦争はやめることになったらしい。実態は、ソ連がドイツとの応戦で手一杯だったから、とても日本と戦う余力はなかったようです。その結果、我々兵隊を南方へまわすことになった。

十二月八日の真珠湾攻撃がアメリカを怒らせ、日本は敗北の道に向かって行った。その時は二六歳ごろでしたか。

北海道には母と弟がいました。私は体格検査では第一乙でした。合格と同じ扱いでしたから、支那事变勃発と同時に召集されましたね。ひどいもんです。

満州の国境任務についていたときのことです。六、七人が馬車で国境に向かって何かの荷物を運んでいた時、地雷にひっかかり馬車もろとも飛ばされました。当時徴発馬は民間から四百円位で買っていました。我々兵隊は三銭で召集されていて、いつも「馬を大事にしろ」と言われていました。馬の世話も大変でした。私らはおなががすいて、馬が食べる大豆も食べたことがあります。

その時の地雷で足が複雑骨折になり、頭が痛く耳もだんだん聞こえなくなりました。幸い私は助かったけど、班長や他の兵隊で死んだ者もいました。

怪我をしたので内地に送り返されましたが、タバコ程度しか貰えませんでした。上申してもっと補償して貰いたい位ですよ。

内地に返されてから、予備校に入って一年半勉強しました。そのうち、深川あたりが全滅するといううわさが流れ、もう死にたくない一心で予備校を中退し、先生の紹介で北海道庁で働きました。紹介してもらったから入れたけど、傷痍軍人が働くのは大変です。

北海道では、国民勤労動員省に勤め、札幌を振り出しに室蘭、苫小牧、滝川とまわされそこで終戦になりました。

混乱の時期にあちこちで朝鮮人の暴動が起きそうになってね。私は兵隊の経験があったので片言の言葉が話せるからと、なだめに行ったこともあります。戦争の時に日本人は随分いじめましたからね。炭鉱で働かせたりして。日本人はよくないですよ。まったく。

役所の月給は判任官待遇で六五円でしたから、家族を養うのがきつかったですよ。いろいろ手当を入れても八五円でしたかね。子供が生まれてからは食べていけないですよ。そしたら、女房の父が「あんた、役人でどれだけ偉いかしれないが、家庭

持ったら食べていけないから、何とかならんかね」というんです。私の役所の先輩が軍需工場を紹介してくれたので役所を辞め、滝川人造石油会社に勤めました。そこでは役所の給料の倍くれましたよ。おかげでだいぶ楽になりました。

その後、東京に引っ越したんです。今では子供も家庭を持って結構やっているから、ばあさんと二人、年金と恩給で暮らしています。戦争はもうこりごりです。

